

— 京都府 —

業務を通してまちを好きになる

1. はじめに

京都府は近畿中北部に位置し、約4,600km²の府域には、海岸があり、山があり、街があり、様々な土地がある。地域により様々な特色のある京都府には、知られざる意外な一面を見せてくれる場所も多い。

私は平成24年に京都府に採用され、今年までの8年余りの間に3つの職場を経験した。各々の職場では、業務で関わったまちの意外な一面や場所に出会ったが、その度に知れば知るほど愛着がわくようになり、業務にも前向きになれるという経験をした。今回は私が業務の中で携わった地域の中から、誌面の都合上1つだけであるが、このような経験を与えてくれたまちの1つである南丹市日吉町の（土木職視点での）紹介と、業務の中で思うことを記したい。

2. 携わった地域の紹介 ～南丹市日吉町～

南丹市は京都府のほぼ中央にある人口約3.3万人（平成27年国勢調査）、面積約616km²の市で、面積は淡路島よりやや広い。今回紹介する南丹市日吉町（以下、日吉町）はもともと船井郡日吉町という1つの自治体だったが、平成18年に隣接する自治体と合併し、南丹市の一部となった。私は平成24年～26年の3年間、ここを管内に含む南丹土木事務所に在籍し、日吉町内の河川工事を担当した。



南丹市日吉町の位置（南丹市HP上の図に加筆）

日吉町には淀川水系桂川の日吉ダムがあり、元祖・地域に開かれたダムとして（同業者内では）有名である。しかし今回は、河川担当者として、水分の路みずわかれ みちを紹介したい。

日吉町上胡麻地内にある水分の路は一見、谷底平野を横断する普通の道路であるが、実はここが中央分水界の一部をなしている。次の写真では、左手側

が淀川（太平洋側）、右手側が由良川流域（日本海側）である。約30万年前までは谷底平野だったが、河川争奪と南側（太平洋側）下流部の沈降によりこのような不思議な地形が生まれたという。



水分の路（写真左が太平洋側、右が日本海側）

日吉町には他にも、春には満開の桜が美しい神社、晩秋には紅葉で赤く染まる溪流など、魅力的な場所が点在しているが、誌面の都合上、その詳しい紹介は南丹市HPや雑誌などの媒体に譲ることとしたい。

3. 自分なりの楽しみ方

業務を通してまちを好きになる。まちを好きになれば業務にも楽しみが増える。そう感じるようになったのは新規採用の頃で、現場や地域内を回るうち様々なものが目にとまるようになり、後から調べたり詳しく地元の方などに聞いたりしているうちに、その土地への興味がわいてきた。すると業務にも少し前向きになった。今後もこの気持ちを忘れないよう業務に向かいたい。一方、やる気を与えてくれる町に新規採用時に出会えたのは幸せであるとも思う。

以上、日頃思うことを思うまま書かせていただいた。最後に、このような駄文を最後まで読んで下さった皆様、そして月刊「建設」発行に関わる皆様の、益々のご多幸とご健勝を祈念して、結びとしたい。



職場旅行にて（筆者は左）

京都府 建設交通部 河川課 伴 教彰